

楽

Sapporo Education and Culture Hall News

RAKU



能舞台でいまも紡がれる
妖怪の物語



札幌市教育文化会館

札幌市教育文化会館情報誌「らく」は舞台芸術を気軽に楽しんでいただきたいという思いを込めて名付けられました。

謡う宝生、舞う金剛 [能演目紹介]

殺生石 金剛流

玄翁道人が奥州から都に上る途中、下野の那須野の原に来ると、空飛ぶ鳥が石の上に落ちるので、不思議に思つて近づこうとすると、突然ひとりの女が現れます。それは殺生石といって、触れると命がないので近寄ってはいけないと止めます。玄翁はその謂われを尋ねると、昔鳥羽院の寵姫であった玉藻の前は、帝もお気に入りであったが、安部泰成の占いによって化生の身を見破られ、ここまで逃げ延び

井筒 宝生流

ある秋の日、諸国を旅する僧が、在原寺に立ち寄りしました。僧が在原業平とその妻の冥福を祈っていると、里の女が現れ、在原業平と紀有常の娘の恋物語を語ります。そして女は自分がその有常の娘であることを告げて、古塚の蔭に姿を消します。夜も更けるころ、僧が仮寝をしていると、夢のなかに井筒の女の霊が現れます。女は、業平の形見の冠・直衣を身につけ、業平を恋慕しながら舞い、さらには、井

能舞台でいまも紡がれる
妖怪の物語

酒吞童子、崇徳上皇、九尾の狐。日本三大悪妖怪といわれているこの三体は、日本の古典文学や芸能のなかに時々登場してきます。特に9つの尾を持ち、千年生きるといわれる九尾の狐は現代の文学作品や漫画にも登場する、いまでも人気のある妖怪。そんな妖怪を主人公にした能の演目が「殺生石」です。

那須野の原(現在の栃木県那須郡那須町)には、近づく者すべてを殺してしまう殺生石という石がありました。その石に取り憑くのは、才色兼備の宮廷女官・玉藻の前(たまものまえ)。仏法のほか管弦など、どんな問いにも答えられる玉藻の前は鳥羽上皇に気に入られ寵愛を受けますが、そのころから上皇

の健康は悪くなり始めます。その原因を陰陽師である安部泰成(清明)が玉藻の前の仕業であることを見破ると、玉藻の前はついにその本性である妖狐の姿をあらわし、那須野の原にて討ち取られるのです。

能のなかでは僧の前に玉藻の前の霊が現れ、身の上を語り申してもらおうという筋です。

身の上語りでも語られる玉藻の前の伝承がほぼ完成したのは、1470年写の『玉藻前物語』だといわれています。さらに、能のなかで玉藻の前は自らの出生を天竺(インド)であること、さらに唐(中国)、日本をまたにかけて世を乱そうとしてきたと言っており、妖狐の伝説は3千年以上も前に遡るこ

とになります。

能は徳川幕府の時代から式楽となり宮廷の正式な芸能であることから、明治維新までの長い間変わらなことを禁じられて舞い続けられてきました。激変する現代のなかで、いまでも伝統を守っている能。そのなかでしっかりと伝えられ、生き続けてきたからこそ、九尾の狐の物語は時代を超えて現代にも伝えられているのかもしれません。

ひとりの演者に、はるか数千年前に始まった物語が宿る。そんな瞬間を観にぜひ舞台上に足を運んでみませんか。

宝生流と金剛流、ふたつの流派の違い

能は演技を担当する「立方」はシテ方、ワキ方、狂言方の3役があり、さらにそこから10の流儀に別れています。ある流儀に一度所属した能楽師は、生涯その立場にあり続けるのが原則で、完全なる分業によって600年以上その伝統が守られています。そうしたなかで各流儀の個性が磨かれてきました。

金剛流 (こんごうりゅう)

古くは奈良の法隆寺に奉仕した猿楽座の坂戸座を源流としている金剛流は、豪快でめざましい動きのなかにも、華麗・優美さがあり、「舞金剛(まいこんごう)」といわれています。また所蔵する能面・能装束に名品が多く「面金剛(おもてこんごう)」ともいわれています。

宝生流 (ほうしょうりゅう)

宝生流は「謡宝生(うたいほうしょう)」といわれるほど謡を重視する流儀です。鎌倉時代末期に生まれた大和猿楽四座の一つ外山(とび)座に由来。江戸時代には五代將軍徳川綱吉によって鼻肩されながらも加賀藩主・前田綱紀の後援を受け、現在でも「加賀宝生」と呼ばれています。

レクチャー 「初めて触れる能の世界 宝生流と金剛流をみくらべて」

宝生流と金剛流の共通項や違いをトークと実演を交えてわかりやすく解説します。ゲストに京都を代表する酒蔵、佐々木酒造の佐々木見氏も登場! 公演とあわせてぜひご堪能ください。

2013年6月25日[火] 19:00~20:30 札幌市教育文化会館 小ホール

[講師] 佐々木見(佐々木酒造代表取締役)、小倉健太郎(宝生流シテ方)、豊嶋見嗣(金剛流シテ方)、成田達志(幸流小鼓方)、茂山茂(大蔵流狂言方)

チケット:1,000円(全席自由/チケットは教文プレイガイドのみ取扱) ※教文ホールメイト、能楽公演チケット所持者は500円



[教文古典芸能シリーズ] 京都創生座

謡う宝生、舞う金剛

2013年6月26日[水] 18:30開演(17:45開場)

札幌市教育文化会館 大ホール

S席: 5,000円 (教文ホールメイト・KitaraClub 会員 4,500円)
A席: 3,500円 (教文ホールメイト・KitaraClub 会員 3,000円)
自由席: 2,000円

※割引チケットは教文プレイガイドのみの取扱となります。

[チケット取り扱い] 教文プレイガイド tel.011-271-3355
ほか市内各プレイガイドで発売中

教文 演フェス 2013

テーマ 「TRY」

教文短編演劇祭 2013

予選 8月17日[土] Aブロック14:00~16:00、Bブロック18:00~20:00
決勝 8月18日[日]14:00~17:00

審査員投票でさらにヒートアップ! 20分間の熱いバトルに大注目

道内外で活躍する劇団やユニットが集まり、20分以内の短編作品を2日間にわたって競い合う「教文短編演劇祭」。書類審査を通過した8チーム、前年度チャンピオン「イレブン☆ナイン」、そして今年は岸田國士戯曲賞受賞作家 佃典彦氏率いるチーム「劇団B級遊撃隊」を交えての激戦バトル。これまでチャンピオンは観客投票のみで決めていましたが、今年からは演劇のプロの目から見た審査員票が加わります。より熾烈な戦いになることが予想され、目が離せません。

教文演劇フェスティバル 2013 2013.8.4日 ≫ 8.18日

毎年8月に札幌市教育文化会館で開催される「教文演劇フェスティバル」。20分以内の舞台作品を競い合う「短編演劇祭」を中心に、演劇を観たことがない人も楽しめ、演劇経験者にとってはもっとおもしろくなる演劇のお祭りです。

今年からは参加型のワークショップにさらに力を入れ、高校生が参加できるクラスも登場。劇団文学座演出家で前国立劇場芸術監督の鶴山仁氏によるワークショップなど、一流演出家のもとで学べるクラスもあり、充実した内容となっています。内容も観客数も年々増え続ける夏の演劇祭に、是非ご期待ください。



昨年の教文短編演劇祭の様子

【大会の流れ】

予選Aブロック 4チームの中から1チームが決勝へ
予選Bブロック 4チームの中から1チームが決勝へ

決勝戦

Aブロック 勝者
Bブロック 勝者
前年度チャンピオン
佃典彦率いるチーム



演劇ワークショップ ※7月より電話受付予定

【鶴山仁 演劇ワークショップ】
8月4日[日] 13:00 ~ 16:00(予定)
劇団文学座演出家の鶴山仁氏を招いての本格ワークショップ。

【演劇ワークショップ】
8月6日[火] 9:00 ~ 18:00(予定)
主に道内の高校演劇部員を対象に、7つのワークショップを開催。講師 小林なるみ ほか。
お問合せ/総合学園ヒューマンアカデミー札幌校
0120-52-3860

【初心者・未経験者ワークショップ(仮)】
8月10日[土]・11日[日] 10:00 ~ 18:00(予定)
教文演劇フェスティバル実行委員長である齊藤雅彰氏による演劇未経験者、初心者に向けたワークショップ。

INTERVIEW [インタビュー/齊藤雅彰(教文演劇フェスティバル実行委員会 実行委員長)]

演フェスは人と人が出会うツール。もっともっと楽しくしたい。

教文演劇フェスティバルには、実は昭和60年からの歴史があります。お盆の帰省の時期に空いてしまうホールを有効利用できないかと地元の劇団に貸し出したのが始まりで、名前や形は変えながらも現在まで続いています。わたしが実行委員として参加するようになった2000年ぐらいから、それまで主に老舗の劇団が中心だった演劇祭をもっと若手も参加でき、観る人も楽しめる内容にしようという動きが起こり始めました。当時はまだ珍しかったワークショップを開催し、若手演出家による舞台作品を発表するようになったんです。若手演出家が演出し、一般公募の人たちが演じる作品はどれも素晴らしいものになりました。演劇というものは真面目に作ったり黙って観たりするだけでなく、人と人が出会う装置としてもっと楽しくしていける、とその時思ったんです。ちょうどその頃から愛知県では「劇王」という短編演劇祭が開催され始め、是非札幌でも開催したいと思い、2008年からスタートしました。勝ち上がり形式の演劇祭は観客にも刺激的だったようで、昨年は小ホールのチケットが売り切れるくらい好評だったんです。地元の演劇を応援しようとスタートした演劇祭です

が、最近では他の劇場でも演劇祭が盛り上がるようになってきています。教文の演劇祭は今後何を指すのかが大きな課題となっているんです。今年のテーマが「TRY」となったのは、実行委員自らが様々なことに挑戦していく年しようという決意からです。今年は短編演劇祭とワークショップの2本柱に力を入れ、新たな試みを取り入れています。演劇を真面目にやっている人からみるとタブーかもしれないことにもチャレンジして、演劇をもっともっと楽しめるものにしていきたいと思っています。

PROFILE

齊藤 雅彰 (サイトウ マサアキ)

教文演劇フェスティバル実行委員会 実行委員長
日本劇作家協会会員 北海道支部 支部長
北海道舞台塾実行委員
演劇集団・超級市場 主宰



古典芸能をもっと身近に「教文古典芸能シリーズ」
能の優美さ、狂言のほがらかなおかしさ、人形浄瑠璃の洗練された伝統芸など、多くの魅力が秘められている日本の古典芸能。札幌市教育文化会館では能舞台や歌舞伎の花道などの本格的な舞台機能を備えた大小2つのホールを活かし、古典芸能を紹介しています。上演の仕方にもひと工夫あり、一緒に上演されることはほとんどなかった能の2つの流派の同時上演や、日本語と英語の掛け合いで繰り広げる実験的なバイリンガル狂言を京都から呼ぶなど見所も様々。ワークショップも体験できるセミナー、レクチャーなど参加型で楽しめる企画もあります。古典芸能がもっと身近に感じられる教文古典芸能シリーズにご期待ください。



大酒飲みの妻をもった夫が、妻が実家へ帰っている間に離縁状を送りつけ、新しい妻を得るために因幡堂の薬師に妻をいに行きます。そこへ腹を立てた妻がやってきて薬師になりすまし、通夜(夜通しこもる)をしている夫に「西門の一の階に立った女を妻にせよ」とのお告げ。喜んだ夫は、西門の階へ向かいますが…。

「因幡堂」 狂言 大蔵流

後見 島田洋海
女 茂山洋海
男 茂山正邦

京都創生座「謡う宝生、舞う金剛」

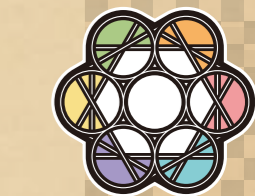
狂言ラジオ体操

日本のお笑いやコメディの源流であるとも言われる「狂言」。その演目の一つ「因幡堂(いなばどう)」をもとにして、面白くラジオ体操を作りました。それは、大酒飲みの妻にほとんど困り果てた、ある男の物語。因幡堂に行って薬師如来様に「新しい妻が欲しい!」とお祈りするのですが…、その後の運命やいかに!? 笑顔と運動は、若さを保つための秘訣です。楽しんで、みんなで健康になってしましましょう!

「分かればきつと面白い 文楽の世界」

教文ワークショップ・レビュー

講演、体験ワークショップ、名作鑑賞が一度に楽しめる文楽セミナーに、当日は10代から80代まで幅広い層が集まりました。
第一部は古典芸能に造詣が深い河内厚郎氏ならではの文楽の裏話を交えた講演。第二部の体験ワークショップでは三味線を出演者と一緒で弾いたり、太夫と一緒に話してみたりと演ずる側からの生の声を聞きながらの体験となりました。人形を動かす場面では、会場全体が盛り上がる場面も。最後は「伊達娘恋緋鹿子」の鑑賞で締めくくり、文楽の世界に魅了されるセミナーとなりました。



教文古典芸能シリーズ

平成25年5月4日(土・祝) ~ 7月10日(水)

文楽セミナー

「分かればきつと面白い
文楽の世界」
小ホール

能楽レクチャー

「初めて触れる能の世界
宝生流と金剛流をみくらべて」
6月25日(火)19時開演
小ホール

能楽公演

京都創生座「謡う宝生、舞う金剛」
6月26日(水)18時30分開演
大ホール

バイリンガル狂言

「附子(ぶす)」
7月10日(水)19時開演
大ホール